

## 第2章 古代国家と東アジアについて

北海道 公立中学校教諭

### 1 概要

第2章「古代国家と東アジアについて」では、人類の出現から武士の登場にいたる数百万年前から12世紀までの原始・古代の歴史を扱っている。

わが国における古代国家の歩みは、東アジアとりわけ中国および朝鮮との政治・経済・文化におよぶ多様な交流により形成された。

第2章のとびらのページ「原始・古代の展示室」（教科書p.17）を見ると、仁藤先生が「…いつごろから日本ができ、国や社会のしくみがととのえられていったのか、中国や朝鮮半島とどのようなかわりがあったのか、に気をつけながら、日本の歴史を学んでいきましょう。」とやさしいことばで語りかけている。ここに、第2章の学習のポイントが簡潔に述べられている。

### 2 教科書の特徴

#### (1) 時代を全体としてとらえる

生徒に「目を閉じて、たとえば1世紀ごろの日本を思い描いてごらん」というと、生徒が思い浮かべるのは、弥生土器や竪穴住居など断片的で、個々バラバラなものとして思い浮かべる生徒が多いのではないだろうか。おぼろげながらも、1枚の絵としてその時代の人々の営みが全体として描かれるような歴史

学習をさせたい。

教科書では、教科書p.26「①吉野ヶ里遺跡」のところで、「p.24①と比べたら何がわかるかな。」と書かれている。三内丸山遺跡と吉野ヶ里遺跡との比較を通して、それぞれの時代の特徴と時代の移り変わりをとらえることができる。



三内丸山遺跡

「中学生の歴史 初訂版」p.24



吉野ヶ里遺跡

「中学生の歴史 初訂版」p.26

吉野ヶ里遺跡では、物見やぐら、濠、柵が見られ、争いがあったことが予想され、「むら」がまとまり「くに」が現れていくことになる。このような社会の変化をもたらした最大の要因は稲作であり、水田の拡大、水の利用をめぐる争いである。この2枚の絵を比較

することを通して、中国や朝鮮半島から渡来した人々が伝えた稲作がわが国の社会に大きな変化をもたらしたことに気づかせる資料である。

生徒は濠や柵だけではなく、住居と高床倉庫の配置、人々の作業のようす、絵に描かれた季節、くり林と稲作などさまざまなところに着目し、特色を発見する。その際、1枚の絵だけでは発見できなかったことが、2枚の絵を比較することで発見が容易になる。

このように絵画を比較するという方法は、他の時代にも活用できる。帝国書院の教科書にはそれぞれの時代の絵画が載せられている。5～6世紀の古墳時代は、教科書p.30「①豪族のやかたとその周辺」p.31「⑤ある家のようす」、7～8世紀はp.34タイムスリップを活用するとよい。「絵のなかからさがしてみよう」で、時代の特色をつかませたい。

## (2) 地図の活用

アジアの中の日本という視点では、地図の活用が欠かせない。地図もまた、個々の事象を関連性をもたせて結びつけるという点では有効である。

古墳時代では、農耕具や武器の材料となる鉄を朝鮮半島から安定して手に入れることが、豪族たちにとってとても重要なことであった。

鉄を百済から手に入れることができたヤマト王権が権力を持ち、統合が急速にすすめられることになる。前方後円墳はそのシンボリック的存在であった。

教科書p.28では鉄のおもな出土地、p.29古墳の分布を通して、ヤマト王権が日本を統一していく過程を東アジアとのかかわりの中で理解することができる。本時の展開例については「3 授業案」で述べる。

以下、教科書ではp.32「④東アジア諸国の関係」p.33「⑨白村江の戦い」p.37「⑦東ア

ジア諸国との交通路」p.42「④古代の世界を結ぶ道」など、地図資料が充実しており、これらを十分に活用したい。

## (3) 大陸風の文化から日本風の文化へ

日本の文化は中国や朝鮮の影響を強く受けている。そのことは、教科書p.33の弥勒菩薩像が具体的にわかりやすい。やがて、日本風の文化が生まれるが、教科書p.43のかな文字の誕生が視覚的でわかりやすい。



▲⑧ 弥勒菩薩像（左 韓国国立中央博物館蔵、右 広隆寺蔵）この仏像の形式は、7世紀に朝鮮半島から倭国へ伝えられました。

「中学生の歴史 初訂版」p.33

## (4) 今日につながる制度

大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら、聖徳太子の政治や大化の改新を経て、律令政治が成立していった。

現在まで用いられる大臣や宮内、東海道などの名称はこのとき始まった。それだけではなく、文書や印鑑による決済のやりかた、地方行政単位、米を中心とする税制、天皇を中心とする国家体制など現在にまで影響を及ぼしている要素は少なくない。



▲③ 律令による政治のしくみ  
「中学生の歴史 初訂版」p.36

### 3 授 業 案



#### (1) 単元 さかんになる朝鮮半島との交流 (教科書p.28～29)

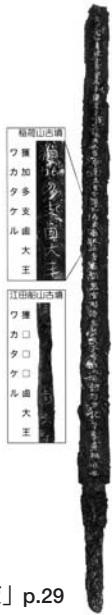
#### (2) 本時のねらい

○ヤマト王権が日本を統一する過程で、朝鮮半島からもたらされた鉄器が、大きな影響をあたえたことを理解する。

○各地の古墳やそこから出土する鉄剣を通じて、ヤマト王権が豪族を支配下に入れる過程を理解する。

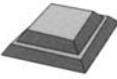
#### (3) 展開


流れ	学習活動	学習支援	教科書の図版資料
導入	<p>○古墳であることを確認し、関心をもつ。</p> <p>○小学校での既習事項を確認する。</p> <p>○大きな古墳は奈良県を中心に分布していたことに気づく。</p> <p>○古墳をつくれるほどの力をもつことができたことに関心をもつ。</p> <p>○教科書などを使って調べ、ワークシート1に記入する(次ページ)。</p>	<p>○古墳の写真資料を提示する。</p> <p>○古墳について知っていることを発表させる。</p> <p>○古墳を大きさ別に色分けをした古墳の分布の資料を提示する。</p> <p>◎学習テーマを提示する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     支配者はどのように統一をすすめたのだろうか。                 </div></p> <p>○ワークシート1を記入させる。</p>	<p>④五色塚古墳</p>  <p>「中学生の歴史 初訂版」 p.29</p>
展開	<p>○ワークシート1の作業を通して予想したことや疑問についても交流する。</p> <p>○鉄が当時の豪族や人々にとって農具、武器の材料として重要なものであったことに気づく。</p> <p>○豪族はヤマト王権から鉄を手に入れていた。</p> <p>○ヤマト王権が朝鮮から鉄を手に入れていたので、豪族はヤマト王権と結びつく必要があった。</p> <p>○鉄剣が発見された場所を確認する。</p> <p>○同じ「ワカタケル」と</p>	<p>○ワークシート1の内容を確認する。</p> <p>・次の点に重点を置いて展開する。</p> <p>○「鉄の延べ板」は豪族にとってどのようなものだったのだろうか。</p> <p>○豪族はどのようにして鉄を手に入れていたのだろうか。</p> <p>○これら2つの鉄剣からはどのようなことがわかるか。</p>	<p>①奈良県の古墳から出土した鉄の延べ板</p>  <p>「中学生の歴史 初訂版」 p.28</p> <p>⑦埼玉県稲荷山古墳出土の鉄剣 (右) ⑧熊本県江田船山古墳出土の鉄刀 (左下)</p>


	<p>いう文字が刻まれていることに着目する。</p> <p>○大王に仕えていたことがわかる。</p>		
まとめ	<p>○ヤマト王権の広がりやヤマト王権と豪族との結びつきがわかる。</p> <p>○図でまとめてもよい。</p> <p>○ノートに、わかったこと、疑問、感想などを書く。</p>	<p>○古墳の分布、鉄の延べ板、鉄剣の見つかった場所からヤマト王権のどのようなことがわかるか。</p> <p>○ヤマト王権の日本統一と鉄の果たした役割を次のことばを用いてまとめよ。</p> <p>(百済の王、ヤマト王権の「大王」、豪族、中国の皇帝、鉄)</p> <p>○自己評価</p>	
発展	<p>○三者の上下関係、一方的に鉄をもらう関係であったのかなどを考えながら、せりふを考え、交流する。</p>	<p>○ワークシート2 それぞれのせりふを書いてみよう。</p>	<p>「中学生の歴史 初訂版」 p.29</p>

### ワークシート1 (項目のみ)

- 古墳とは何ですか。
- 古墳がつくられた時代はいつごろですか。
- 次の①～③のような古墳の形を何といいますか。
 

①  


②  


③  

- 古墳が分布している地域はどこですか。
- 巨大な古墳をつくったのはどうしてですか。
- 副葬品にはどのようなものがありましたか。
- 古墳や副葬品からどのようなことがわかりますか。  
次の(1)～(3)について、具体的に書きなさい。
  - (1) わかること
  - (2) 予想できること
  - (3) 疑問に思うこと

### ワークシート2

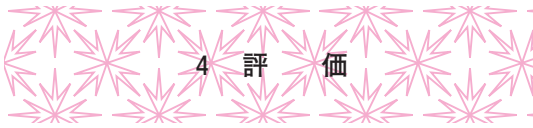
教科書 p.29「やってみよう」  
百済の王、ヤマト王権の大王、豪族の3つの役に分かれて、鉄をわたしながら、それぞれのせりふを入れてみよう。



前方後円墳と関係あり?

鉄の見返りは何?

えと



## 4 評価

### (1) 授業改善のために

評価は学びを改善し、学びを推進していくうえでとても大切である。

「帝国書院教師用指導書2006」に本時の目標、展開、観点別評価規準が示されている。本時の目標と観点別評価規準を基に授業計画を作成し、それらが評価できるような学習活動の場を設定する。

教師は生徒の発言、ノートやワークシートなどに記入したものなど、生徒が学習活動として外面に表れたもので評価をし、指導をする。したがって、評価場面では生徒に表現させる場を設定することになる。

生徒は授業の展開の中では取り上げないことについて疑問をもつこともある。授業の最後に自己評価の時間を設定し、書かせるようにするとともに、その疑問を解決する場を設定することが教師の次の課題となる。

### (2) 主体的な学びの中でこそ

目標をもち、自ら主体的に学びを進めているときは、その学習の過程で、または最後に自然に自己評価が行われる。自ら学習課題や学習テーマを設定し、学習計画や学習の進め方が本人のものになっていることが自己評価の前提である。知識伝達式の講義調の授業では、生徒が受身になりがちである。受身の自己評価は教師による「やらせの自己評価」でしかない。

観点別評価規準表に基づいて評価の観点を示すこともあるが、日常の授業では最後に、次のような記号を用いて、わかったことや疑問などをノートにできるだけ具体的に書くように指導している。もちろん毎回、次の3つをすべて書くというわけではない。

- ……わかったこと
- ?……疑問や調べたいこと
- ……感想

教科書の口絵2では「中学校での歴史は、考える・なぞを解く歴史です。なぜ? どうして? と疑問をもち、よく調べ、じっくりと考えることが必要です。」と書かれている。日常的に疑問をもつ、疑問を見つけることを意識させながら授業を行っている。

### (3) 自分のものとする

自分のものとするためには、自分なりの表現の場面を設定することが有効である。「3 授業案」のようにせりふを考える場面などは効果的である。

以下、「3 授業案」を例に説明をする。ワークシート2では、教師の支援としては、場の設定を明確にすること、三者の上下関係、鉄を手に入れるかわりに相手に何を渡したのかを考えさせたい。時間があれば、3人のグループをつくり、百済の王、ヤマト王権の「大王」、豪族の3つの役を分担し、せりふを考え、実際にロールプレイをするとよい。

実際にやってみると、鉄を渡す場としてふさわしいせりふなのか、だれから話をするのか、それに対する返事はするのか。また、3人が一緒にいることはあるのか、どこで鉄は渡されたのかなど、ロールプレイをすることで、確かめたり、調べたりしなければならぬ課題も見つかる。つまり、自分がわかっていないところに気づくのである。

教師は、そのせりふ(ロールプレイ)の評価規準と学習支援の計画を立てておくべきである。仲間との交流・表現を通して、学びが深まり、学びが自分のものとして獲得できる。

教科書の「やってみよう」の■には、このような表現活動が例示されているので、授業計画に積極的に取り入れていきたい。